

町長所信

(要約)

東日本大震災以降、多くの若者は、人間にとり本当に大切なものは、お金などではなく、美しい日本の国土である、故郷の町並みであることを認識しつつあります。私はこのような認識を新たにしたり若者が、必ずや地方に戻ってくる日が来ると信じています。そしてその日のために、若者を受け入れることのできる社会や環境を、地方はできるだけ早く用意していく必要があると思います。

また今、世界中の人々が、四国八十八ヶ所に大きな興味を持っていると言われています。昨年は、和食が世界無形文化遺産に登録され、『おもてなし』という言葉も世界的に使われ始めています。このように世界中の人々が、「真に人間にとり必要なもの」を追い求め始めた現状の中で、牟岐町は、

何をすべきなのか。

牟岐町において昨年1月から12月までの間、月2回再生会議を開催してまいりました。その議論の中で牟岐町の今後の取り組みとして、つぎの4点を挙げたいと思います。1、災害に強い町づくり。2、農林水産業を牟岐町の基幹産業として育てる。3、牟岐町の伝統や文化はできる限り多く残す。4、全ての町民が共通して取り組める課題を持ち行動する。

まず、牟岐町を地震津波に強い町とするため公共施設の整備を進めています。学校、保育園を高台に移転し、病院も移転に向け工事中でございます。そして避難所、避難路については、健康者の方で10分以内に避難できる場所に設置して、今後、毎年少しずつこれらの避難所、避難路の整備をレベルアップしてまいりたいと考えています。つぎに安定の必要な農林漁業でございますが、農業は米作りの他、鳥獣害を受けない作物の生産、販売が

必要ですし、漁業は、まずは海藻類の養殖が必要だと考えております。

つぎに牟岐町の伝統や文化をできるだけ多く後世に残すためにも、出羽島の漁村集落を現在の島民の皆様をの生活を守り、また、牟岐町の文化的財産として後世に残すために、重要伝統的建造物群として国の指定を受け、今後、整備をしていく必要があると考えております。また、先祖の残してくれたものを最大限活用するためにも、牟岐町内の空き家の有効活用も重要な課題であると考えております。町内の利用しやすい空き家をサークル活動拠点、遍路宿、よくばり体験の民泊施設、美術館、サテライトオフィス、喫茶店などとして利用していただくことが、牟岐町の再生には欠かせないことでございます。最後に町の活性化、つまり少子高齢化の中で経費をかけず雇用の創出や所得を上げるために、今、必要なことは町全体で共通し取り組める課題を決め、みんな



出羽島・牟岐アート展2014

が協力し、取り組むことでございます。私は海部病院が平成28年度中に高台に移転し、将来はバイパス沿いの大変シンボリックな病院となることもあり、牟岐町の皆さんができるだけ健康で長生きするために「保養と健康の町」として、各人ができることを考え行動していただくことが重要だと思います。その一例として、安全安心な質の高い農

産物や水産物をつくることや、飲食店が質の高い原材料などを使った健康料理を作ること。加工業者の方は、この質の高い原材料を使った加工品を生産すること、そして小売業者の方々はこのような健康食品の他、健康グッズ、健康関連製品を取り揃え販売していただきたいと思っております。とにかく牟岐町の皆様が、自分達が健康になるため、また来